

# 地域いきいき:中国



湖水街道推進会議

## 日本風景街道：人間文化の原風景

～ご縁をつなぐ神仏の通ひ路～

三代 隆司 MISHIRO Takashi

湖水街道推進会議座長

「山々の裾はすべてその霞<sup>かすみ</sup>で隠される。更に霞は果てしなく長い薄織り布のように、より高い峰々をそれぞれ違った高さの所で横切つて進む。この奇妙な霞の有様を日本語では霞が『棚引く』と言うが、そのため湖は実際より比較にならぬほど大きく見え、現実の湖というよりも寧ろそれは曙の空と同じ色をした美しい幻の海となり、空そのものと見事に溶け合う」（小泉八雲著「神々の国の首都」より）



霞棚引く宍道湖が広がる

これは、小泉八雲が宍道湖の畔のまち、松江に佇んで、「神々の国の首都」に記した景色です。私たちの日本風景街道「人間文化の原風景～ご縁をつなぐ神仏の通ひ路～」は、この宍道湖と中海という汽水湖と、二つの湖から見える大山までの地域です。大山について、安来生まれの陶芸家、河井寛次郎は次のように記しています。

「高さは二千米にも足りないと言われたが、すっきりと大空に聳え立つ火山独特のあの円錐形の姿は、こんな土地に生み付けられた人々には、掛け代えのない大きな賜物であった。大仙は伯耆のものではあったが、その美しい姿は出雲が所有した。伯耆の西端出雲境に近いこの山は、どうした事か、その正面を出雲に向けていたから」（河井寛次郎著「六十年前の今」中「母人大仙」より）



中海に浮かぶ大山

### 発足と圏域

日本風景街道「人間文化の原風景」は、平成18年3月に松江商工会議所内に準備組織を設立し、日本風景街道戦略会議の委員による現地視察が行われました。その結果、「我が国を代表する地域資源」、「風景街道の取り組みにマッチした先行的な取り組みである」など、高い評価を受け、翌平成19年には28の民間団体、16の道路管理者が参加、イングランド北西部の景勝地・湖水地方にちなんで組織名称を、レーク街道（のちに湖水街道）推進会議と改め、日本風景街道に正式登録されました。

島根、鳥取両県にまたがる私たちの日本風景街道には、二つのルートがあります。一つは、湖の沿岸を巡る「湖水ルート」。もう一つは、出雲大社など、20の社寺による出雲神仏霊場を巡る「神仏の通ひ路ルート」で、こちらは平成17年に創設されたものです。

当時、「風景の魅力とは何か？」をテーマに、「日本の景観～ふるさとの原型～」の著書でサントリー学芸賞を受賞された景観工学の専門家、樋口忠彦氏を招き、勉強会も開催しました。氏から、小雨の中で霞に煙る中海の景色の日本的なることや、俯角15度の景色の美しさなどを教えてもらいました。

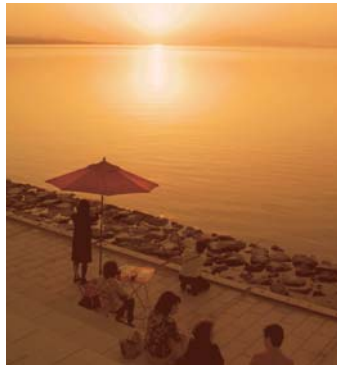


湖水街道の二つのルート

## お洒落な湖水街道カフェ

平成19年から続くのが、真っ赤なパラソルが目印の「湖水街道カフェ」です。これは、風景への眼差しを取り戻すため、湖の畔に佇める場所を設ける取り組みです。お洒落な赤いテーブルと椅子はフランス製、鉄でできているので結構な重さですが、松平不昧公が興したお茶どころ松江は、赤い緋毛氈と野点傘でお茶を愉しむ文化が根付いていますから、洋風野点でコーヒーを提供する趣向はピッタリでした。

湖畔にある喫茶店や食事処は、連携カフェとして、湖水街道のパンフレットに掲載したり、店内にパンフレットを置かせてもらったり。また、各店舗から見える山の名前や由来を書いた「風景カード」を備え付け、風景に関心を持ってもらう仕掛けも用意しています。



湖水街道カフェ



風景カード

## 女性に人気の神話体験ツアー

日本風景街道「人間文化の原風景」の圏域は、出雲大社をはじめ出雲国風土記に記載のある神社や地名がいまも残る古代出雲の地です。折から、平成24年は古事記の編纂から1300年の節目の年。それに先立つ形で、平成21年、推進会議では風景街道のルートの中の3つのコースを舞台に、「心の旅先、神在りの国」と銘打ち、神話体験ツアーを実施。引き続き、翌22年は、鳥根県の「神話のふるさと鳥根推進協議会県民提案事業」を活用してガイド付きツアーを展開し、参加者からは大好評でした。



出雲神話を体感できる体験ツアー

## 案内標識や地図、看板、展望所の整備事業

古事記編纂1300年の平成24年、県では「神話博しまね」などの大型イベントを開催しましたが、困ったのは、

来県者のための案内表示がほとんどなかったことです。そこで、日本風景街道「ご縁をつなぐ神仏の通ひ路」の標識を使用して案内することが決定し、大がかりな標識整備が進められました。



道路標識



指さして確認できる案内看板

## 圏域連携の要

地域との連携を深めるため、道の駅や展望所に、「ご縁をつなぐ神仏の通ひ路」ルートを紹介する看板を設置するとともに、一部の道の駅にパンフレットブースを設置しました。ブースは、多くの人々が立ち寄り、地域の観光情報を発信する拠点となり、やがて圏域のすべての道の駅に拡大していきました。

パンフレットブースは、NPO団体がイベントを開催する場合には会場として利用されます。その際、前述したパラソルなどの湖水街道カフェのセットを、NPOに貸し出し、積極的に活用してもらうことになっているため、湖水街道のPRにも役立っています。



人気のパンフレットブース

## おわりに

平成25年は出雲大社の大遷宮のおかげで、周辺のホテルや旅館はどこも満室状態。とくに、私たちの

風景街道の名称にもある「ご縁」に縁のパワースポットは、多くの女性たちで賑わっています。さる11月12日の出雲大社の「神迎え祭」も大盛況でした。

湖水街道推進会議では、小泉八雲や河井寛次郎が描いた明治の出雲の風景が色濃く残る「人間文化の原風景」を大切にしながら、人々が連綿と守ってきた出雲の文化を伝えていきたいと考えています。



海辺で神迎え祭